

SGST会員各位

令和元年8月28日

SGST代表 名城大学 葛 漢彬  
幹事長 宇野重工(株) 大塚 慎也

平成31年度SGST新規委員会「急速施工技術調査研究委員会」の委員募集のお知らせ

拝啓 時下ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。平素はSGSTの活動にご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、令和元年8月23日の第1回臨時総会で新委員会である「急速施工技術調査研究委員会」の発足が承認されましたので、下記の要領にてSGST会員の中から委員の公募を行います。奮ってご応募をお願いします。

#### 記

**委員会名：**

「急速施工技術調査研究委員会」(委員長：名古屋大学 清水助教)

**委員会研究趣旨および応募条件：**

別途pdfファイルに添付します、委員会の「起案書」をご参照ください。

**活動期間：** 概ね2年間(令和元年10月~令和3年10月)

**応募方法：** SGST事務局 <sgst@uno-g.co.jp>宛てにe-mailにて、「お名前」、「ご所属」を明示し、お知らせ下さい。

**募集期間：** 令和元年8月28日(火)~9月20日(金)(※応募人数により、早く締め切る場合がありますのでご注意ください。)

ご多用中のところ恐縮ではございますが、何卒ご協力いただけますよう、お願い申し上げます。

敬具

令和 元年 8月 9日

東海構造研究グループ代表  
葛 漢彬 殿

## SGST 研究委員会 起案書

起案者氏名 清水 優  
所属機関 名古屋大学

下記の通り、SGST 研究委員会を立ち上げたく、起案書を提出します。

研究委員会名： 急速施工技術調査研究委員会

研究趣旨：

我が国ではインフラ構造物の老朽化が進んでおり、今後、既設橋梁の架け替えや、補修・補強の必要性がますます高まることが容易に想像される。一方、従来の更新技術では経済的・時間的なコストが大きいため、より省力化したインフラ構造物の更新技術が望まれる。近年では、現場での作業をより省力化するため、急速施工に特化した橋梁形式・補修方法や、モジュラー式の簡易橋梁等が開発されている。また、日本に先駆けて橋梁の老朽化が進行している米国では、Accelerated Bridge Construction (ABC) の普及に向けたマニュアルが整備されており、既存の設計コードではカバーできない ABC に特化した特有の構造についても設計方法等が示されている。

本委員会（「ABC 委員会」と称す）では国内外の急速施工技術を調査・整理する。また、米国における ABC のマニュアルを読解し、ABC 特有の懸案事項や ABC に特化した構造の設計方法等について知識を深め、構造工学に関する学術の進歩に寄与することを目的とする。得られた成果は報告書として発信し、我が国の急速施工技術の発展の一助になればと考えている。

対象は、SGST 若手技術者(20～30 代)・研究者・さらに大学院生を考えているが、40 代以上の方の参加も歓迎する。道路管理者、設計コンサルタント、橋梁・鋼材メーカーなどあらゆる業種の方を対象とするが、特に自社の急速施工技術についてご紹介いただける方や、海外の急速施工技術について熟知されている方の参加を強く歓迎する。